

## 胃切除後に発生した吻合部潰瘍穿孔の1例

みず さわ きよ あき すが むら けん じ  
 水 澤 清 昭 菅 村 健 二  
 お がわ はる あき  
 小 川 東 明

キーワード：胃切除後，吻合部潰瘍，穿孔

## 要 旨

症例は，71歳，男性。41歳時に十二指腸潰瘍穿孔にて当科で胃切除術施行。2012年4月，突然の左側腹部痛を主訴に救急外来を受診した。腹部全体に圧痛や筋性防御や腹膜刺激症状を認めた。血液検査では白血球増多を認めた。血清 gastrin や Ca 値，血中ヘリコバクターピロリ抗体は正常であった。胸部X線検査や腹部CT検査で腹腔内に遊離ガス像が認められた。以上より消化管穿孔による汎発性腹膜炎と診断し，緊急手術を行った。開腹すると，腹腔内に淡血性の腹水を少量認めた。胃切除術後の再建は，Billroth II法（結腸前吻合）＋Braun 吻合であった。胃空腸吻合部近くの空腸前壁に穿孔がみられ，吻合部潰瘍穿孔と診断した。穿孔部の単純閉鎖術ならびに大網被覆術，ドレナージ術を施行した。術後経過は良好で21日目に退院した。今回の手術は成因に対する根治術ではないため，潰瘍再発の可能性があり，抗潰瘍剤投与を含めた長期的な経過観察が重要であると思われた。

## はじめに

近年，H<sub>2</sub>受容体拮抗薬（以下H<sub>2</sub>RAと略す）やプロトンポンプ阻害剤（以下PPIと略す）などの胃酸分泌抑制剤の開発が進み，消化性潰瘍の治療の中心は薬剤投与になって<sup>1)</sup>，消化性潰瘍の待機的手術症例はほとんど見られなくなった。よって，吻合部潰瘍穿孔は臨床的に遭遇することが稀な疾患となってきた。今回，十二指腸潰

瘍穿孔に対する胃切除術後，30年目に発症した吻合部潰瘍穿孔の1例を経験したので，若干の文献的考察を加えて報告する。

## 症 例

患者：71歳，男性  
 主訴：左側腹部痛  
 既往歴：41歳時，十二指腸潰瘍穿孔にて当科で幽門側胃切除術が施行された。

現病歴：2012年4月，突然の左側腹部痛を主訴に救急外来を受診した。精査の結果，消化管穿孔による汎発性腹膜炎が疑われ緊急入院した。

Kiyoaki MIZUSAWA et al.

安来市立病院外科

連絡先：〒692-0404 安来市広瀬町広瀬1931

安来市立病院外科